

堺市および堺市の企業、関西大学商学部学生の コラボによる地域協働型事業の推進



活動の目的

- 1 | これまで学内で推進してきた文理融合プロジェクトAjiConを堺市との協働事業として展開し、より地域貢献を指向する活動とする

連携にいたる経緯

関西大学商学部では、理工系学部である化学生命工学部と一緒に文理融合プロジェクトを2013年より4年間に渡り推進してきた。2017年度では、より地域貢献できる活動へと転換することを考えた。そこで、関西大学と連携協定を結んでいる堺市に対して、堺市にある企業数社とタッグを組み、各企業が抱えている問題・課題を解決・達成する活動に3つのゼミの学生チームが取り組み、最終的に堺市で最終発表会を開催することを提案し、了承を得た。

活動内容

AjiConは2013年にスタートした商学部と理工系学部との文理融合プロジェクトである。2017年度ではこれを堺市との協働事業として位置づけ、より強く地域貢献を目指すこととした。堺市により募集していただいた参加企業6社に対して、参加3ゼミからなる学生のチームを割り当て、各企業が持つ問題や課題を解決・達成する活動を行った。春学期は教員・URAチームと堺市、参加候補企業との調整期間で、秋学期より学生が参加した。10月のスタートアップワークショップ後、連携する企業への課題等の聞き取りを学生チームが行った。11月には中間発表会、2018年1月に1次選考会を開催し、最終発表会に進むチームを選抜した。最終発表会は、堺市のサンスクエアホールにて開催した。堺市との調整、参加企業とゼミとのマッチング、プロジェクトの推進管理、発表会場の予約においては研究推進部が、各発表会の運営、各種取材、ニューズレター作成においては上位年次生が重要な役割を果たした。

活動の成果

- 1 | アークフーズ(株)より学生提案の古墳弁当を堺タカシマヤにて販売予定(他社でも進捗中のものあり)
- 2 | 新聞報道:毎日新聞(2018年1月17日)、産経新聞(同2月9日)
- 3 | 最終発表会のアンケートをもとに、VOC(Voice of Customer)を確認

● 教員紹介



商学部 教授
荒木 孝治
(あらき たかはる)

専門は統計学・品質管理。ゼミでは過去に2回、山崎製パン(株)とともに関大ランチパックの開発を行った。現在、理工系学部と連携する文理融合プロジェクトや様々な企業との産学連携プロジェクトを推進している。



商学部 教授
西岡 健一
(にしおか けんいち)

エジンバラ大学ビジネススクール博士課程修了、PhD(エジンバラ大学)。専門はサービス・イノベーション論。ゼミではマルチプロジェクト体制と英語での発表機会を増やすことで、人材育成に取り組んでいる。



商学部 准教授
千葉 貴宏
(ちば たかひろ)

専門はマーケティング論(主に消費者行動論、サービス・マーケティング論)。ゼミでは、一方では新知識や理論を開発し、他方では新ビジネスを考案するといった、理論・学術面と実証・実務面の両方の能力を高める活動を推進。

DATA

● 主な連携先・メンバー

〈連携先〉堺市 市長公室 企画部
企画推進担当課長 金本貴幸/
アークフーズ株式会社/株式会社AGプロダクツ/株式会社FTB
ドリームファクトリー/松井泉
/浜寺餅 河月堂/株式会社プランタン工房
〈メンバー〉関西大学商学部 荒木孝治・西岡健一・千葉貴宏/学長室URAグループ/荒木・西岡・千葉各2年次演習クラス学生/荒木ゼミ4回生

● 活動地域

堺市および関西大学千里山キャンパス・堺キャンパス

● 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業



今後の課題・目標

- 1 | 次年度も堺市との連携プロジェクトとしてAjiConを実施する
- 2 | 今回の活動の反省点を踏まえ、きちんとPDCAのサイクルを回しながらより良い活動としていく
- 3 | 将来的には全学的な活動として位置づけていきたい